

## 今後も気温が低く日照時間が少ない日が続く見込み！ 不稔粒の発生やいもち病が懸念される！

平成15年7月18日  
やまがたこだわり安心米推進運動本部

### 1 生育概況

7月18日の調査によれば、「はえぬき」は、平年に比べて草丈はやや短く、茎数は並みで、葉数は0.4枚程度少ない。葉色は平年より淡いが指標値並みとなっている。なお、幼穂調査によれば、「はえぬき」では生育指標どおりの出穂期(8月9~10日)と予測され、低温により不稔粒の発生が最も懸念される減数分裂期が7月5~6半旬にあたる。

品種名	場所	予想出穂期	平年出穂期	*出穂15~11日前(本年)
はえぬき	農業試験場	8月6日	8月4日	7月22~26日
	庄内支場	8月9日	8月6日	7月25~29日
	中山間地研究部	8月9日	8月8日	7月25~29日
ササニシキ	庄内支場	8月8日	8月5日	7月24~28日
あきたこまち	農業試験場	8月5日	8月2日	7月21~25日
	中山間地研究部	8月5日	8月2日	7月21~25日

\*低温に弱い時期

### 2 緊急の技術対策

7月18日発表の山形地方気象台発表の1か月予報によると、今後しばらく低温、日照不足が続く見込みである。

このため、以下の点に留意して当面の技術指導にあたる。

#### (1) 低温対策等の徹底

稻はまもなく減数分裂期を迎える。この時期に低温に遭遇すると不稔による減収が懸念される。よって、中山間部では、できる限りの深水と漏水の防止により幼穂の保護を図る。また、平坦部であっても出穂前15~11日頃に最低気温17以下日の日が連続して出現すると予想される場合は、水深を15cm以上の深水に保つ。冷害遭遇時に稻体の窒素含有率が高い場合は不稔歩合がより高くなることから、過度な穗肥は行わない。

#### (2) 病害虫対策の徹底

低温が続くと稻体の体力が弱まりいもち病にかかりやすくなるため、出穂直前と穂揃期の2回は必ず防除する。粒剤の防除を行う場合には出穂20~10日前に遅れないように施用する。

また、斑点米カメムシ類の発生が平年より多いため、薬剤防除は必ず穂揃期と穂揃期後7~10日の2回畦畔を含めて実施する。発生が多いところでは、穂孕後期(出穂7~5日前)の薬剤防除も実施する。また、畦畔、農道等の草刈りは、斑点米の発生を助長することから、8月末まで行わない。

『いもが農業は使わない！ 使う場合は適正に！ 使ったる記帳する！』

## 低温と日照不足に関する山形県気象情報 第2号(訂正)

平成15年7月18日13時40分  
山形地方気象台発表

山形県では、引き続き今月末にかけても気温が低く、日照時間の少ない状態が続く見込みです。農作物の管理等には十分注意して下さい。

山形県では、6月24日から梅雨前線やオホーツク海高気圧からの冷たく湿った東よりの風の影響で天気がぐずつき、気温が低く日照時間の少ない状態が続いています。

引き続き今月末にかけてもオホーツク海高気圧が東北地方に張り出し、最高気温が平年より2~3度低く、最低気温は17度以下となる見込みです。また、日照時間の少ない状態が続く見込みです。

農作物の管理等には十分注意して下さい。

なお、6月24日から7月17日までの主な地点における最高気温の平均と平年差、日照時間と平年比は以下の通りです。

(気象官署による速報値)

	最高気温の平均	平年差	日照時間	平年比	
				時間	%
山形	24.4	-2.1	63.9	62	
酒田	23.3	-1.8	85.9	72	
新庄	23.1	-2.2	71.4	70	

(アメダスによる速報値)

	最高気温の平均	平年差	日照時間	平年比	
				時間	%
米沢	24.3	-1.1	55.8	79	
尾花沢	22.0	-1.7	51.7	60	

「」は観測値に欠測を含む。=